

Focus on!

国際交流ステーション

市町村や市町国際交流協会、NGO/NPOなどの活動紹介や最新ニュースをお届けするコーナーです。

一般社団法人 ViVarsity (日本語学習支援基金 日本語教室学習支援事業認定団体)

一般社団法人 ViVarsity (ビバーシティ) は、誰もが「ここに来て良かった Viva (バンザイ)」と思える「Diversity (多様性) がある社会」を目指して活動しています。外国ルーツの子ども向けには、岡崎市の図書館内の会議室で毎週日曜日の13時～15時に「Viva キッズ日本語ひろば」を開催しています。

教室には、小学校1年生から高校1年生まで約20名が通っています。国籍は、ブラジル、フィリピン、中国、ベトナム、ネパールなどさまざまなルーツの子どもたちがいます。学校の宿題など教科学習から、日本語がまだ苦手な子には日本語指導もしています。受験生には進路の相談など、高校受験のサポートも可能な範囲で行っています。コロナなどの心配がある時は、オンラインでも開催し、途切れない教室づくりを心がけています。最近は大学生も活躍していて、身近な先輩として子どもたちを支えてくれています。

また、年に1回はキャリア教育セミナーを実施して、将来のことを考える機会もつくっています。子どもたちが自分の可能性を信じて、前向きにチャレンジしていけるようにサポートしていきたいと思っています。



▲年齢、ルーツもさまざまな子どもたちが通っています



▲みんな勉強がんばっています!

一般社団法人 ViVarsity (ビバーシティ)

住所：岡崎市康生通東 2-22-1

TEL：0564-77-9264

E-mail：info@vivarsity.jp

URL：https://note.com/vivarsity_blog/

Focus on!

世界の街かどレポート

世界各地で活躍する方々に現地の活動や交流の様子をレポートしていただくコーナーです。

「ところ変われば教育も変わる！カンボジアの小学校」

カンボジア (JICA 海外協力隊 原田佳代子)

2021年3月から、カンボジアで JICA 海外協力隊員として、シムリアップ州青年スポーツ教育局初等教育課で活動をしています。州内の公立小学校を巡回し、主に教員に対して、日本の算数の授業や効果的な教材づくりの紹介、授業に対するアドバイスや提案などを行っています。その中で知ることができた、カンボジアの小学校と日本の小学校との違いのいくつかを紹介したいと思います。

- ①多くの学校が2部制(午前7:00～11:00と午後1:00～5:00)の半日で、月～土の週5日、40分×5時間授業が行われています。
- ②先生も半日だけの勤務で、多くの先生が副業をしています。
- ③先生の子供が職場の学校に通っていたり、先生の小さな子どもが、先生の教室にいたりします
- ④1クラスの人数は平均40～50人で、2人で1つの長机を使って勉強をしています。70人弱のクラスもまれにあります。
- ⑤売店があります。子どもたちは、休み時間に軽食を取ったり、お菓子などを買って教室や外で食べたりしています。
- ⑥音楽や図工の授業はほとんど行われていません。体育は、体育館や運動場はなく、校舎と校門までの間の通路などで行われています。
- ⑦単元ごとのテストはなく、毎月1度テストがあります。年度末には進級試験があり、決められた点数に達しないと留年となります。公立小学校ですが、さまざまな事情で退学してしまう子もいます。
- ⑧登下校は、親による送迎、自転車やバイクでの通学が一般的です。

違いの中には驚くこともあります。カンボジアと日本の子どもたちの人懐っこい笑顔は同じです！いつまでも子どもたちの笑顔は、万国共通であってほしいです!



▲2年生の算数の授業を観察し、困っている児童をサポートしています。長机を2人ずつ座っているのもわかると思います。



▲自転車やバイク通学の児童が下校している様子。駐輪場の門(正門ではない)から出ます。2人で乗っている様子も分かります。